

入学式式辞

神出中学校に入学された新1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。また、本日、ご参列の保護者の皆様。慈しみ育ててこられたお子さまの節目となる、中学校へのご入学、誠におめでとうございます。

新型コロナウイルス感染防止のため、来賓の皆様のご臨席をなしとさせていただきますが、新入生の激励にいささか変わりはありません。関係の皆様からたくさんのご祝辞も頂戴しております。そのすべてをご紹介出来ませんが、式場入り口に掲示させていただいておりますので、ぜひ、ご覧になってください。

神出中学校は、お子様のご入学を心から歓迎し、職員一体となって、その個性を伸ばし、健全なる成長を目指し、誠心誠意、努力する所存でおります。保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動にご協力くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さん。神出中学校は、「自主・責任・奉仕・協力」の校訓を掲げ、地域の歴史を誇りにし、礼儀正しく明るく頑張っている学校です。昨年「神出オアシス」という言葉をスローガンにしています。皆さんも、この校風に早く慣れ、2年生、3年生の先輩の良いところを見習って、手本としながら、しっかりと中学校生活を送るよう希望します。

中学生の3年間は、人の一生の中で「知恵と心と体」が大きく成長する時です。私は、この時期は「ヘンシン」の時期だと考えています。蝶々が幼虫からサナギを経て羽化するよう、体も心も大きな変化を遂げる時期です。これについて、私がなぜ、中学校の教師をしているのかを含め、私の人生に大きな影響を及ぼした2人の恩師の話をしたと思います。

私はこの神戸で生れ、神戸で育ちました。しかし、小学校時代の私は、決してほめられる児童ではなかったと思います。特に小学校5年生の頃は、授業がわからないといって、クラスの友達と一緒に授業を抜け出してグラウンドで遊んでいたり、歌が嫌いだといって合唱も歌わず、むしろ騒いでいたりするような児童でした。当然、成績はふるわず、その頃の通知簿は5段階で、ほとんどが「2」がついていました。

ところが、小学校6年生の時に転校することになりました。そこで、出会った担任の服部先生は、催眠術をおかけになる方で、私はその先生からいろいろと催眠をかけられたのです。中学校に入学する直前に、こんなことを言われました。

「長井君、君は小学校時代、本当によく遊んだよね」

……「ハ～イ」

「君は人の3倍は遊んだよね」

……「ハイ！」

「だから、中学校に入ったら、人の3倍、勉強するんだよ」

……「ハイッ！」

その言葉通り、私は中学校に入ってからよく勉強しました。休みの日は一日14時間くらい勉強することもあったと思います。皆さんも心配ありません。小学校時代、ほとんどわか

らなかった算数も、数学として勉強したら理解出来るようになりましたし、新しく学んだ英語も時間をかけてやれば得意になりました。服部先生から、まんまと催眠をかけられてしまったのでした。

そして、もう一人、私に多大な影響を与えた先生が、中学1年生と3年生で英語を教えていただいた萬年先生という方でした。

萬年先生は京都大学を卒業された方で、神戸市西区平野町にある曹洞宗宝珠寺の住職さんでもありました。また、この神出中学校で英語の先生をされていたこともありました。もしかしたら、保護者の方の中にも教えて頂いた経験のある方がおられるかもしれません。その萬年先生は、英語だけでなく、詩吟や座禅なども取り入れ、ユニークな教育をしていただきました。そして、何より、こんな私を認めて、褒めてくれたのです。そのお陰で、私は中学時代に大きく「ヘンシン」することが出来、中学校の教師になりたいと思うようになったのです。

また、教師になってからも、教え子の中に、中学3年間で大きく「ヘンシン」する生徒をたくさん見てきました。ところで、この中学時代に「ヘンシン」することの出来る人には、1つ大きな共通点があります。それは、「素直な心で人の話を聞ける」ということです。そして、「素直」になるためのコツは、「でも」「だって」「どうせ」という3D言葉を言わないように願うことです。そこで、今日から、神出中学校内では、「でも」「だって」「どうせ」の3D言葉は『禁句』にしたいと思います。

今、皆さんは、中学校入学にあたって、期待とともに不安も抱えているかもしれません。でも、全く心配いりません。神出中学校には、とてもいい先輩、熱心な先生、そしていつも温かく皆さんを見守り、応援して下さる保護者や地域の方がたくさんおられます。ぜひ、この神出中学校で、いい「ヘンシン」を遂げてほしいと願っています。

最後に、「よし頑張るぞ!」と思っている皆さんに向けて、さきほどご紹介した私の恩師、萬年先生から教わった詩吟を贈って、式辞といたします。

なお、この詩は、門出やお祝いにふさわしくないかもしれませんが、今年、還暦を迎える私から、私の人生の5分の1の長さを生きてきた皆さんにとって、きっとよき教訓になるのではないかと思います。

少年易老学難成 一寸光陰不可輕 未覚池塘春草夢 階前梧葉已秋声

令和4年4月11日

神戸市立神出中学校 校長 長井 功